

編集後記

新型コロナウイルスパンデミックも3年目を迎え、特にオミクロン株が中心の第6波においては、ワクチンを接種していれば感染しても比較的軽症で済むこともあって、社会生活がコロナ禍前に戻っているように見えます。先日主催した第66回日本リウマチ学会総会・学術集会で特別講演をお願いした、経済再生担当大臣および新型コロナウイルス感染症対策担当大臣を務められた西村康稔議員は、「感染対策というプレーキと、経済対策というアクセルをいかにして両立させるかが重要」と述べておられましたが、今年のゴールデンウィークは、マスクをしている人がほとんどだった点を除けば、各地コロナ禍前と変わらない混雑ぶり、まるでプレーキが外れたようでした。これでリバウンドが来なければ良いのですが、案の定各地で感染者数が増加しつつあります。やはり新型コロナウイルスとの共存は当分続きそうです。

さて令和3年度の男女共同参画白書では、新型コロナウイルス感染症の広がり、特に女性に大きな影響を与えたことが報告されています。その原因としては、①ステイホームや在宅ワーク、学校休校などの影響が飲食・宿泊業等を直撃し、これらの分野で雇用が不安定になったために、非正規雇用労働者として働くことが多い女性にしわ寄せが来たこと、②緊急事態宣言を契機にDV（配偶者暴力）が増加・深刻化したこと（2020年度の相談件数は前年の約1.6倍）などが挙

げられています。コロナ禍をきっかけに、わが国におけるジェンダー不平等という潜在的な問題が表面化しており、男女共同参画のさらなる推進が望まれています。

本号の特集は、山内かづ代先生にご企画いただいた「整形外科におけるダイバーシティ」です。ダイバーシティ（多様性）という言葉は、男女共同参画にとどまらず、様々に異なる個人が、それぞれの違いを受け入れて活かしていくことを意味しています。女性医学生の増加とともに女性医師の割合が年々高まっている中で、整形外科は女性医師の割合がとりわけ低い診療科であることが報告されています（新聞先生らの項参照）が、この背景には、整形外科は力仕事が多く女性には向いていないという「ジェンダーステレオタイプ」というバイアス（桑沢先生の項参照）、そしてこれまで女性医師が少なかったため、女性の意見やニーズを拾い上げる努力が足りなかったことが原因として挙げられます。

このような中で日本整形外科学会では女性医師支援等検討委員会、その後継である男女共同参画委員会、男女共同参画・働き方改革委員会を発足させ、女性の意見を積極的に取り入れる取り組みを行っています。このような取り組みを通じて、今後整形外科の魅力がもっと女性医師にも伝わることを期待しております。

（田中 栄）

「整形・災害外科」第65巻 第7号（6月号） 2022年6月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 44,660 円（本体 40,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。